芙蓉楼にて辛漸を送る

王昌齢

寒雨江に連なって夜呉に入る
平明客を送れば楚山孤なり
洛陽の親友如し相問わば
一片の氷心玉壺に在り

（作者）六九八～七五五？　江寧（今の南京）の人。或いは太原の人ともいう。秘書省校書郎となったが、礼法を無視する奔放な性格が禍いして龍標（現在の湖南省黔陽）に左遷され、安禄山の乱の時、混乱に紛れて勝手に故郷に帰ったために刺史閭丘暁に殺された。七言絶句の名手で、特に女人怨情、辺塞出征の詩に優れたものが多い。

（語釈）○芙蓉楼…江寧（今の南京）の東方鎮江の、長江を見下ろす景勝の地にあった楼。○寒雨江に連なる…寒々とした雨が降り注いで、天と水の区別のつかない様。○平明…あけがた。○玉壺…白玉で作った壺。

（通釈）冷たい雨が揚子江に降り続く中を、昨夜君を送って呉の地までやってきた。そして夜明けがた、君を見送れば、行く手にぽつんと一つ、さびしくそびえ立つ楚山の姿。

洛陽の親友達がもし私のことをたずねたら、玉の壺にもられた氷のように清らかな心、とそう答えてくれ給え。※南朝・宋の詩人、鮑照（四〇五～四六一）が清さの抽象として「清如玉壺冰」と詠った